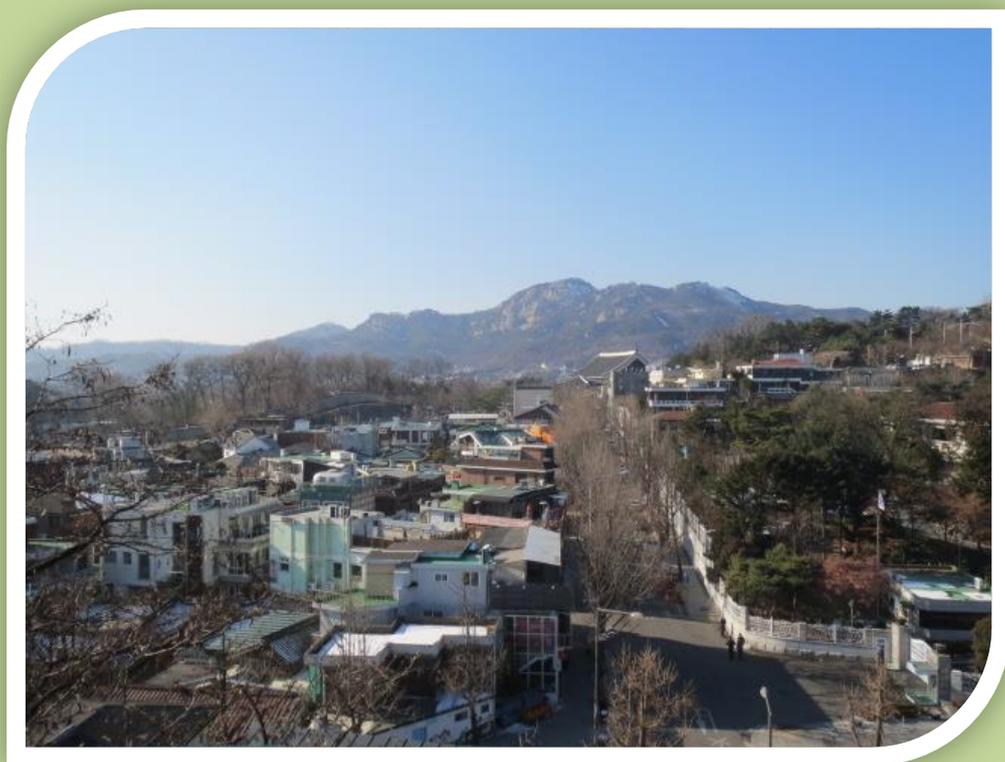


**第7回**

**韓国スタディツアー報告書  
2013**



**杉並ユネスコ協会**

日本ユネスコ協会連盟「2013年度青少年ユネスコ活動助成」支援事業

## はじめに

杉並ユネスコ協会では、2006年より青年部主催の「韓国スタディツアー」を実施してきました。もともと会員（とくに理事）の間で韓国文化への関心が高く、会員同士の勉強会や公開の講演会（例えば2006年11月25日、ユネスコのつどい・教育フォーラム「韓国を知ろう」）を実施してきました。最近でも、ユネスコ文化講座として区民を対象としたハンダ語講座を開催しています（2012年度および2013年度事業）。その背景には、もちろん韓国の映画やドラマが国内でヒットした、いわゆる「韓流ブーム」があることは否定できませんが、それよりも、日本の隣国である韓国の文化を少しでも深く理解したいという、ユネスコ精神に根ざした会員共通の思いがありました。「近くて遠い国」から「近くて近い国」へ。これがキーワードです。

今回で7回目となる本ツアーは、実際に現地を訪れ、自分の目と耳で韓国の歴史と文化を理解しようとする、青年主体の体験学習です。具体的には、ツアーの二本柱として「異文化理解」と「平和学習」を掲げています。前者については、朝鮮王朝時代の遺跡を訪れ、また民俗博物館を見学することで、韓国人（朝鮮人）の伝統的な価値観や習俗を学びます。さらに韓国青年とのディスカッションを通じて、現代の韓国人のライフスタイルについても理解を深めます。後者については、日本が韓国を支配した際に使用した刑務所跡を見学するとともに、現在進行中の戦争 — 朝鮮戦争 — の最前線まで足を運び、現場の緊張感を直に肌で感じ取ります。韓国の昔と今を、文化と戦争の2つの切り口から学び取り、そこで得た知見を将来の日韓友好に役立てることが、本ツアーの目的となります。

本報告書は、2013年12月末に実施した「第7回韓国スタディツアー」の内容を記したものです。全体は3部構成となっており、第Ⅰ部では訪問先の紹介、第Ⅱ部では参加者の感想、第Ⅲ部ではツアー報告会の様子が書かれています。また巻末には関連する写真が掲載されています。本報告書を通して、本協会の国際交流に対する取り組みについてご理解いただき、日韓友好にむけた若者による地道な交流活動について関心を寄せていただければ幸いです。なお、本ツアーは日本ユネスコ協会連盟の「2013年度青少年ユネスコ活動助成」の支援を受けて実施しました。この場を借りて、同連盟に心よりお礼申し上げます。

岩野 智

# 目 次

---



はじめに..... i

ツアーの概要..... 1

## I 訪問先の紹介

---

1 韓国の民俗文化／韓民族の文化..... 4

2 西大門刑務所歴史館..... 6

3 板門店..... 8

4 韓国青年とのディスカッション..... 10

## II ツアー報告会

---

1 報告会の内容..... 14

2 小・中学生の感想..... 15

## III 参加者の感想

---

1 佐藤 航..... 18

2 黒竹 聡美..... 19

3 村田 早紀..... 20

4 小林 穂菜美..... 21

5 岩野 智..... 22

6 山田 祐子..... 23

写真..... 24

あとがき..... 26

## ツアーの概要

### ◆滞在先・期間

大韓民国ソウル特別市

2013年12月26日(木)～29日(日)

### ◆宿泊先

センターマークホテル・ソウル

ソウル特別市鐘路区寛勳洞 198-42



2012年11月オープン。韓国の工芸品や伝統茶屋が立ち並ぶ仁寺洞(インサドン)周辺に位置する。地上14階、地下4階の構造となっており、客室数は250室。ホテルの1階には24時間オープンのマクドナルドが入っている。地下鉄1号線鐘閣(チョンガッ)駅3番出口より徒歩約5分。繁華街の明洞(ミョンドン)までは歩いて15分ほど。仁寺洞までは歩いて約5分。景福宮(キョンボックン)などの観光名所も徒歩圏内。

### ◆行程

12月26日(木)	12月27日(金)	12月28日(土)	12月29日(日)
10:30 成田空港集合	9:30 ユネスコハウス着	8:20 ロッテホテル着	9:00～11:30 景福宮・国立民俗博物館見学
12:30～15:10 アジアナ航空101便	10:00～11:30 韓国青年とのディスカッション	8:50～14:50 板门店バスツアー (DMZ、キャンプ・ボニファス、JSA、	12:00 ホテル発
16:20～17:20 仁川空港よりリムジンバスで「鐘路2街」まで移動	11:50～13:00 韓コ協連と昼食	軍事停戦委員会会議場、帰らざる橋など)	12:10～13:10 「鐘路2街」からリムジンバスで仁川空港へ移動
17:30 ホテル着	13:00～15:00 韓国青年と北村見学	15:00～16:30 西大門刑務所歴史館見学	15:10～18:10 アジアナ航空106便
18:00～20:00 夕食、明洞散策、ソウルタワー見学	15:30～20:00 広蔵市場・東大門市場見学、夕食	17:00～19:30 ソウル・ロッテマート散策、夕食	18:30 成田空港にて解散

◆参加者

団 長	岩野 智
青年部	佐藤 航
同 上	黒竹 聡美
同 上	小林 穂菜美
同 上	村田 早紀
理 事	山田 祐子



◆会計報告

収 入			
	費 目	金 額 (円)	内 訳
1	参加費	440,000	65,000×4 (青年) 90,000×2 (理事)
2	協会費	5,462	杉並ユネスコ協会
3	助成金	50,000	日本ユネスコ協会連盟
収入合計		495,462	
支 出			
1	航空券	250,710	41,785×6
2	宿泊費	148,500	21,220×5 42,400×1
3	拝観料	53,438	ソウルタワー ₩9,000×6 板門店バスツアー 7,500×6 西大門刑務所歴史館 ₩3,000×6 景福宮 ₩3,000×6 (民俗博物館は無料)
4	交通費	14,682	空港バス ₩10,000×6×2 (回) 地下鉄 ₩1,050×6×5 (回) 市内バス ₩850×6×2 (回)
5	食 費	19,453	1 日目 ₩80,000 (夕食) 2 日目 ₩30,000 (夕食) 3 日目 ₩41,500 (朝食) 4 日目 ₩56,000 (昼食)
6	土産代	5,462	韓国ユネスコ協会連盟 2,310 韓国青年 (4名分) 3,152
7	印刷費	3,217	コピー用紙 1,233×1 インク代 1,984×1
支出合計		495,462	

※¥100=₩1066.64 (当時の為替レート) として算出。

# I 訪問先の紹介

---

韓国の民俗文化／韓民族の文化

西大門刑務所歴史館

板門店

韓国青年とのディスカッション

## 訪問先 1 〈異文化理解〉

# 韓国の民俗文化／韓民族の文化

今回のスタディツアーで、韓国／韓民族の文化をよく知ることができた場所は主に二箇所あり、二日目に韓国の大学生の方々と行った北村韓屋村（ブッチョン・ハノクマウル）と、最終日に行った景福宮（キョンボックン）及び国立民俗博物館である。

まず北村韓屋村だが、ここは朝鮮の伝統的な建築様式の家屋「韓屋（ハノク）」が密集した地区であり、大韓民国指定登録文化財、大韓民国指定史跡ならびにソウル特別市民俗文化財・ソウル特別市文化財資料に指定された建造物等が多数存在する。その多くが所有者個人の住居として現在も使用されており、これら指定物件の内部は非公開のものが多い。

この韓屋は、主に山を背にして、前は水と向き合うように南向きで建てるという風水の「背山臨水」の原則が守られるのが通常であるが、建て主の職業や持病などにより、建築家が任意に調整することもある。また風の通り道や水の位置、山と平野との距離や方向、すなわち風水地理の理論に基づき、家の目的と居住者によって配置がアレンジされて建てられることもある。中の造りは、寒い冬は「オンドル」と呼ばれる、竈を使った時に出る煙を床下に送って部屋を温める暖房設備を使い、夏は板の間で涼しく過ごすことができるようになっている。つまりこの北村韓屋村では、厳しい夏と冬を乗り切ることを考えた昔の人々の知恵が詰まった建造物を見ることができる。



次に、景福宮だが、ここは朝鮮王朝の王宮である。近代では大日本帝国に併合された後に朝鮮総督府の庁舎が置かれた。1553年に大火で焼失し、1592年に再び焼失した。その後は離宮の昌徳宮が正殿に使用され、景福宮は約270年の間再建されなかった。そのため、今現在も復旧事業が行われている。離宮の昌徳宮は世界遺産（文化遺産）に登録されているが、景福宮が登録されていないのは、この焼失によって歴史的な遺産がほとんど残って

いないためである。そして日本人にはなかなか知られていないのが、二度目の焼失は文録の役で日本軍が侵攻してきた際に治安が乱れ、起きたものである。

その景福宮の敷地内にあるのが、国立民俗博物館である。常設展示には、①韓民族の生活史、②韓国人の日常生活、③韓国人の一生と3つのスペースがあり、屋外には昭和の韓国の街を再現した展示もある。さらに、子供たちが伝統的な生活・文化に直に触れられる子供博物館も隣接している。



①韓民族の生活史では、旧石器時代から始まり、国家の形成の過程や高句麗などの三国時代、そしてハングルの誕生から、過去一世紀の日本による植民地支配や独立、分断、近代化、世界化に至るまで、韓民族の生活を時代の移り変わりとともに学ぶことができる。

②韓国人の日常生活では、一年を周期に繰り返される農耕生活と、四季の変化に合わせて暮らしてきた朝鮮時代の人々の生活様式が季節ごとに見られる。春は一年の豊作と安寧を守護神に祈る祭りをし、農作物の種まきをして。夏には厳しい暑さをカラムシや麻で織った服を身につけ凌ぎ、強い日差しを利用して塩田で塩の生成などをした。秋には農作物を収穫し、冬に向けて穀物や野菜を保管し、冬の寒い時期には不足しがちな栄養をキムチなどで補っていた。こうした一年間の農耕生活をわかりやすく展示している。

③韓国人の一生では、朝鮮時代の「ヤンバン」と呼ばれる上流階級の人々が生まれてから死ぬまでに経験する、出生、教育、冠礼、婚礼、出世、還暦、喪礼、祭礼などの様々な儀式を紹介している。

そして、屋外展示では昭和時代の韓国の街並みが再現されており、床屋やカフェなどの店が置かれている。興味深いことに、日本の昭和の街並みと非常に似ているものだった。



これら韓民族の文化は、日本と似ているものや、日本と全然違うものなど、非常に興味深いものであり、隣の国にも関わらず、まだまだ韓国の文化には知らないことがたくさんあるように感じた。(佐藤 航)

## 西大門刑務所歴史館

ツアー三日目の午後、今回、私たちが訪れたときの気温は氷点下。風が吹けば体感マイナス 10℃以下のときもありました。そんな気候の中、暗く狭くもちろん暖房の環境設備はない独房が並んでいました。



西大門刑務所は、「京城監獄」という名称で 1908 年 10 月 21 日に日本政府が当時近代的な監獄として建築

しました。1910 年に韓国併合が行われ、その後「西大門監獄」「西大門刑務所」と名称が変更されました。煉瓦造りの獄舎には、日本が韓国を植民地化している時代に多くの独立運動家たちが収監されていました。韓国独立後にも刑務所として使われ、1987 年 11 月 15 日刑務所としての機能が地方へ移転したため、約 80 年の役割を終えました。独立公園が開園した後に、1995 年政府樹立 50 周年記念事業として「西大門刑務所歴史館」の建設工事が開始され、1998 年 11 月 5 日開館されるようになりました。



西大門刑務所は韓国の原宿と言われる明洞から地下鉄で約 15 分のところに位置しています。高円寺・新宿間とほぼ同じ距離感です。今日では周りに多くのマンションがあり、日常生活の近い場所に、西大門刑務所歴史館のある西大門独立公園は位置しています。

現在は西大門刑務所歴史館として、韓国の独立と民主化の歴史を学ぶための展示・教育・体験施設となっており、資料・受刑者の記録や拷問の様子が展示されています。施設は主に展示館・獄舎・野外展示から構成されています。数年前に改修工事がはじまり、今までと展示の内容に変化があるそうですが、今回の改修により新たに復元された建物もあります。また、閉所時に 15 棟残っていた獄舎の内 7 棟は保存され、10～12 獄舎は 1915 年に造られた当時のままであり、中の見学ができ、独房の中も展示ブースとして利用されています。





拷問の展示は人形で再現されているものから、実物の拷問道具に直接触れられるようになっているものもありました。拷問の方法の名前を聞くだけで寒気がするものもあれば、これは最終的に拷問なのかと首を思わずかしげてしまうものまでありました。

←尋問の様子を再現した展示

館内を見学していると、一つのポプラの木が目がいきます。高さ約5メートルの壁を挟んで向かい側にあるポプラの木とは驚くほど成長が違います。このポプラの目の前にある建物は死刑所です。入口わきに木があるため、死刑者が刑の執行直前に木へしがみついたり、死刑所から聞こえる辛い悲鳴声などによる影響によってポプラの木は成長ができなかったと言われ、「慟哭のポプラ」と呼ばれています。



私は今回訪れるのが3回目でしたが、ここが苦手です。社会科見学や修学旅行の見学地として多くの韓国の学生が訪れる場所であり、少しここを離れば観光客の日本人はたくさんいるはずなのに、ここでは日本人の姿をほとんど見ることはありません。展示物の説明はほとんどハンデルで書かれているということもあり、見学している韓国人の方々を見かけると、日本人に対してどのように考えているのだろうかと思ってしまいますし、説明を聞いているときの視線もとても気になってしまいます。現代の韓国人にとって



ここはどのような位置付けなのでしょう。向こう側から口を開かない限り、歴史的背景などはタブーな話題ではないかとやや感じてしまいます。日本と韓国の関係には、今のドラマやアイドル以外にもこんな歴史的背景があるのかと体感できる、数少ない場ではないかなと考えています。韓国好きだなと感じる日本人旅行者の1人でも多くの方に見ていただきたいと思います。 (小林 穂菜美)

〈参考〉西大門刑務所歴史館ホームページ

<http://www.ssmc.or.kr/foreign/jp/introduction.html> (日本語)

# 板門店

ツアー三日目、韓国と北朝鮮の国境である板門店を訪問するバスツアーに参加しました。これは特定の韓国観光業者が実施するバスツアーで、明洞近くのホテルよりガイドの韓国人女性と共にバスに乗り、まずは板門店近くの国連軍（韓米軍）駐屯地を目指します。そこで国連軍のバスに乗り換え、板門店には米軍と共に行くのです。ガイドの女性が、板門店に行く上での注意事項、板門店の歴史、板門店がいったいどんな場所であるのか、バスの中で話してくれました。

## 1. 板門店の歴史的経緯

1945年の終戦とともに朝鮮半島が日本から独立をしますが、この時朝鮮半島はまだ分断されていませんでした。しかしそこへ米ソがやってきて、朝鮮半島の信託統治を開始します。38度線をひき、北を社会主義国のソ連が、南を資本主義国のアメリカがそれぞれ分割占領したのです。その後、韓国は1948年5月に独立、その一か月後に北朝鮮も独立国家となりました。

1950年6月25日に、北朝鮮が朝鮮半島の主権を主張して韓国に侵略したことで、朝鮮戦争が勃発します。北朝鮮側にはソ連と中国、韓国側にはアメリカが加わり戦争は3年間続きましたが、1953年7月27日板門店にて休戦協定が結ばれました。夜中の12時まで戦って、そこで領土となっていたところを境界線としたので、38度線のような直線ではなく、複雑な曲線が軍事境界線（休戦ライン）となっています。この軍事境界線から南北にそれぞれ2kmずつの区域が非武装地帯（DMZ）として設定されました。板門店は軍事境界線上にある唯一の南北の接触点で、国連軍と北朝鮮軍が共同で警備する共同警備区域（JSA）とされています。朝鮮戦争は終戦したのではなくあくまでも休戦中で、いつ戦争が再開してもおかしくありません。そんな緊迫した状態にある板門店を訪れたのです。

## 2. バスの中での話

板門店にはバス2台で向かいました。1号車の観光客は全員日本人、2号車は日本人と欧米人が半々です。ガイドの女性の話によれば、板門店への立ち入りは国連軍によって厳しく制限されており、3日前に予約してすぐツアーに参加できるのは、日本人とフィリピン人のみだそうです。中国、香港、イスラム、マカオ、台湾の人は簡単に予約できず、複雑な手続きが必要です。テロを起こす可能性がある国の人は入れません。そして韓国人も、原則として板門店を訪れることはできません。これは、朝鮮戦争により家族が南北にひきさられてしまった人が多くおり、そういった人に亡命されては困るからです。

ガイドの韓国人女性も、北朝鮮に家族がいるとおっしゃっていました。母親と3人の子どもが北朝鮮、父親が韓国へと引き裂かれてしまい、父親の韓国での再婚相手の子どもがガイドの女性です。北朝鮮にいる家族には会ったことがないそうで、自分の家族に会えな

いで苦しむ人が沢山いるとおっしゃっていました。北朝鮮に親がいるから行ってみたいと、亡命を試みる韓国人がいるのです。

板門店に行くには、観光客もルールに従わなければなりません。まず服装は、ジーンズやミニスカート、露出の多い服を着ていくことはできません。武器になるようなものは携帯することが許されず、長傘も持ち歩き不可です。また許可された場所以外で写真を撮ること、米軍の指示に従わないこと、建物や人を指さすこともかたく禁じられています。こういったルールに従わない人がある場合は、米軍の判断でその日のツアーが打ち切りになることもあるそうです。

### 3. 板門店中心の様子

ガイドの女性の話によれば、「非武装地帯」というのは名前だけで、実際には180万人の武装兵隊が隠れて銃口だけ出し作戦を実施しているそうです。板門店付近は山に囲まれています。はげ山が北朝鮮の山、木のある山が韓国の山と見分けることができます。北朝鮮は、亡命する人をすぐ発見できるように山の木を全て切り倒しているといわれています。

国連軍の駐屯地につくと、国連軍の客であることを証明するバッジをつけられ、国連軍のバスで板門店の中心に向かいます。板門店の中心には、軍事停戦委員会の会議場である青い建物が、軍事境界線をまたいでたっています。

建物の外にある軍事境界線は、15cm くらいの高さのコンクリートの線があるだけで、すぐにひょいと超えられてしまいそうです。その線のすぐこちら側に韓国兵が、すぐ向こう側に北朝鮮兵が微動だにせず仁王立ちして、隣あってお互いを監視しているのです。青い建物の向こうには北朝鮮側の建物があり、北朝鮮の兵士が双眼鏡でこちらを監視しているのが見えます。



彼らは、私たち観光客がちゃんと国連軍のバッジをつけているかどうかチェックしているそうです。ここで私たちは写真を撮ることができますが、まっすぐ前を向いて撮影しなければならず、左右を向いてはいけません。写真を撮る時間が数分与えられ、時間が来ると米兵が厳しく「No more pictures!!」と声を張り上げます。

その後、米軍と共に会議場である青い建物に入ることができます。建物内にも韓国兵が人形のように立っており、その隣で写真撮影をすることができます。この韓国兵たちはなんと、兵役中の大学生だそうです。板門店に配属された韓国兵は、極寒の中、2時間微動だにせず立ち続けなければなりません。

### 4. 板門店周辺の様子

板門店中心部分の見学が終わり、国連軍の駐屯地に戻ってくると、急に米軍が優しくなります。観光客の要望に応じて、まるでアイドルのようにフレンドリーと一緒に写真撮影をしてくれます。この駐屯地にはお土産屋も設けられており、様々なグッズが売られています。緊迫した場所ではありますが、ツアーといいショップといい、商業に利用されている点が興味深いと感じました。

(村田 早紀)

## 韓国青年とのディスカッション

韓国滞在二日目、韓国ユネスコ協会連盟のご協力により、韓国青年の方々と一緒に日本と韓国の文化について意見交換を行い、お互いに学び、理解を深めました。話題は若者の流行から伝統的な慣習、社会問題まで多岐にわたり、活発な議論をすることができました。ディスカッションに参加した韓国青年たちは、皆日本語を話すことができ、ボランティアで自国の小・中学生に日本語を教える活動をしているとのことでした。

### ◆出席者とディスカッションの流れ

韓国青年が3名、韓国留学中の日本人学生（司会担当）が1名、杉ユ協から青年4名が参加しました。ディスカッションの実施場所は、明洞にある韓国ユネスコ協会連盟事務所（ユネスコ・ハウス）の会議室でした。韓国側の出席者とディスカッションの流れは下表のとおりです。

韓国側出席者		
イ・ジェキョ	大学生	男性
イ・ソフン	同 上	男性
キム・セナ	同 上	女性
林 亮典	司 会	男性



ディスカッションの流れ	
10:00	自己紹介
10:10	前半テーマ「若者のライフスタイル」 ・流行（ファッション、音楽など） ・学校生活、休日の過ごし方 ・大学入試 ・就職活動
10:50	後半テーマ「社会的慣習と社会問題」 ・伝統的な食文化 ・韓国人の「イングリッシュ・ネーム」 ・核家族化と少子化 ・女性の社会進出
11:30	終了

### ◆ディスカッションの概略

主に話題が集中したのが、前半の「流行」と「大学入試」、後半の「伝統的な食文化」でした。それぞれの話題について、日本と韓国で共通する点と異なる点を指摘し、相手の文化（ひいては自国の文化）に対する理解を深めました。次頁以降では、ディスカッションの流れに沿って、具体的な内容を紹介します。



## ディスカッションの内容

まず話し合ったことは、若い人々のライフスタイルについてです。その中でもいくつかのトピックを設けました。例えば、はじめに双方の国で現在流行しているファッションや音楽などについて話しました。ファッションについては日本の流行とほとんど同じであるということを知り、距離が近いために流行も似通っているのかと感じました。また、流行りの音楽についての話がとても盛り上がりました。韓国では **BIGBAN** や **2PM** などの若い世代のアーティストの人気の高いようで、日本で **K-POP** ブームの火付け役ともなった東方神起や少女時代、**KARA** はお兄さん、お姉さんのような存在になっているようです。

一方、日本では **AKB48** やももいろクローバーZ、嵐が流行っていることを話しました。アジア圏などで活動範囲を広げている **AKB48** なら知っているかと思っておりましたが、韓国ではあまり知名度が高くないらしく、知っている人が少なかったです。



2つ目のトピックは大学入試についてで、韓国と日本では大きな違いがあることが分かりました。韓国では大学入試は今後の人生に関わる重大なイベントの1つであり、大学受験に失敗することが無いように、高校では授業や補習プログラムがしっかりと確立されているにも関わらず、更に塾にも通ったりと大学入試に万全な対策をとっているようです。また、試験当日には、後輩が門の前で受験者にエールをおくこともあるそうです。さらに、交通状況ややむを得ない事情で試験に間に合いそうに無い場合、警察がパトカーで試験会場まで送ってくれたり、タクシーの運転手が無料で乗せてくれたりするそうです。大学入試をそれほどまで重要視しているということを知ることができ、とても勉強になりました。



後半には、両国の社会について話し合いました。なかでも一番話が弾んだトピックは、伝統的な食文化についてでした。2013年12月5日に韓国の「キムジャン文化（キムチづくり文化）」と、日本の「和食」を無形文化遺産としてユネスコが登録したため、お互いの国の文化の紹介とともに、自国の文化の再確認の意味も込めて、学びを深める良い機会となりました。

まず、キムジャン文化について、韓国はキムチ専用の冷蔵庫が一家に1台あると言われるほど、キムチは韓国を代表する食文化と言えるでしょう。そのようなキムチをつくる文化は昔から有り、冬の寒さが厳しい韓国に最適な保存食だったそうで、その文化が今に伝わっているそうです。かつては、周辺の家族と一緒に協力しながら、多くのキムチを漬けていたそうですが、今でも冬前になるとキムチを漬けるそうです。



また、日本の伝統的食文化である「和食」について、もともと「和食」と言えば「お寿司」や「ご飯、味噌汁」といったものを連想していましたが、「和食」という単語はどんな食を指すのか、改めて考えさせられました。無形文化遺産であるということは、つまり、形が無いのだから説明することが難しいなと感じました。また、それと同時に、「和食」を説明できないということは、やはり若者の和食離れがあるのではないかと考えさせられました。

今回の話し合いは、和食とはなんなのか、また、日本とはどのような文化を持つ国なのかなど、他国との比較を交えながら、自国を見つめ直すいい機会になるのではないかと感じました。  
(黒竹 聡美)



## Ⅱ ツアー報告会

---



報告会の内容

小・中学生の感想

## 報告会の内容

ツアー帰国後の2014年1月18日(土)セッション杉並にて、小・中学生を対象とした「韓国スタディツアー報告会」を行いました。杉並ユネスコ協会の「中学生クラブ」の時間を利用して、小・中学生に韓国の歴史・文化を理解してもらい、将来の日韓友好について考えてもらいました。参加した小・中学生は計21名(小6が3名、中1が2名、中2が10名、中3が6名)、その他高校生・大学生が3名、大人が10名でした。

全体の構成として、前述の4つの訪問先をそれぞれ説明し、前半と後半に1つずつクイズを織り込みました(右表)。「韓国の民俗文化」では、景福宮と北村の伝統建築、および民俗博物館の展示品を紹介しながら、韓民族の伝統的な生活様式について説明しました。

「韓国青年とのディスカッション」では、日韓文化を比較しつつ、若者の流行や日常生活、食文化などにおける相違点・共通点について説明しました。「西大門刑務所」では、刑務所が建てられた背景および刑務所内部の様子を紹介し、日本による韓国支配の実態について説明しました。「板門店」では、朝鮮戦争勃発の経緯と現在の休戦状態を説明したうえで、南北分断、徴兵制といった日本では考えられない状況を小・中学生に想像してもらいました。そして、2つのクイズ「韓国の文化的遺産」と「韓国での食事のマナー」では、韓国に存在するユネスコの文化的遺産(世界記憶遺産、無形文化遺産を含む)や、現代に受け継がれる伝統的な食事の作法について紹介しました。

報告内容	報告者
クイズ① 韓国の文化的遺産	岩野
韓国の民俗文化	佐藤
韓国青年とのディスカッション	黒竹
クイズ② 韓国での食事のマナー	岩野
西大門刑務所	小林
板門店	村田

小・中学生は熱心に話に聞き入り、時には驚き時には笑いながら、反応もとてもよかったです。配布したアンケートには、報告会の感想がびっしりと書かれていました(次頁以降参照)。韓国に関する質問も多く出て、「韓国の食べ物はみんな辛いのか」、「韓国では日本語が通じるのか」、「韓国人は日本人のことをどう思っているのか」など、素朴な質問から難しい質問までさまざまありました。小・中学生にとって韓国は日本の隣国でありながら、まだまだ知らないことの多い国であるようです。その点で、この報告会は韓国への興味を高めるきっかけづくりとして、非常に意義深いものであったと思われます。(岩野 智)



# 小・中学生の感想

報告会においてアンケートを配布し、印象に残った報告や、韓国について新しく知ったこと、学んだことなど、自由に感想を記入してもらいました（下は実際のアンケート）。ここでは、感想が多く寄せられた3つのテーマと全体を通じた感想を紹介します。

## 1. 韓国の大学入試、受験勉強について

- ・韓国の人が、すごく勉強する時間が長くて、高校生が家に午前0時に帰宅すること（塾に通っているため一注）を知って驚きました。
- ・日本と韓国の高校生の違いにとっても驚きました。韓国では授業の時間がとても長く、さらに塾にも行っているとは。
- ・大学入試などに遅れそうになっている生徒を見つくと、タクシーの運転手さんや警察官が送迎してくれるということを新しく知りました。受験がとても大事で、それで人生が変わってしまう。だから（高校の）授業もたくさんあるし、塾にも遅い時間まで通っていると聞いて、とても驚きました。
- ・高校を大学に入るためのステップとしてしか活用できない（例えば放課後の部活動をする人が少ない一注）というのは、もったいないと思いました。

中学生クラブ（2014年1月18日）  
「韓国スタディツアー報告会」  
アンケート・感想表

1. クイズの回答

①	②
1. ハングル	2. 塾を持つ
1. 通学	2. 食べる

2. アンケート  
次のうち、一番印象に残った（興味を持った）報告はどれですか、その理由も教えてください。

(1) 韓国の民俗文化
(2) 韓国青年とのディスカッション
(3) 西大門刑務所歴史館
(4) 板門店

番号	理由
(3)	日本と韓国の関係-日韓関係が悪い理由の1つをまた新たに学ぶために、日本の動きを見直す必要だと思いました。

3. 感想  
報告を聞いて、韓国について新しく知ったことや、疑問に思ったことなどを書いてください。

一部の人が日韓関係を良くしていると思ってるにも関わらず過去にこたわって動きたさな人が多いのが残念なと思いました。しかし、でもいからおたけは違っているところをマウスとして受け取るのではなく、アラスとして考えていけば日韓友交に近づいていくと思いたすことが出来ました。

ご協力ありがとうございました！ 報告者です！！

## 2. 日本による韓国支配の歴史について

- ・日本と韓国の関係が悪い理由の1つを、また新たに学びました。日本の言動を見直すべきだと思いました。
- ・日本が韓国を植民地にしていたのは知っていましたが、そこまでひどいものとは知りませんでした。
- ・日本にとって都合が悪いことにも目を向けなくてはと思いました。
- ・過去の日本も悪いことをしたと思うが、これからは過去にそこまでとらわれず、どんどん友好的になってほしい。
- ・（韓国人の中には）自分のおじいさんやおとうさんが殺された方もいると思うし、今も辛い思いをしている人もいるはずだから、見直してもらえるような立派な日本人になりたいなと思いました。辛いことがあったのにそれでもやさしくしてくれる韓国人は、とてもやさしい人たちだと思いました。

### 3. 朝鮮戦争と板門店について

- ・韓国と北朝鮮が戦争の休み中ということを知りました。
- ・板門店について初めて知りました。北朝鮮との国境にこんながあるとは思いませんでした。（北朝鮮の兵士が韓国側観光客の）バッジを遠くから確認しているとは思わなかったです。
- ・日本と韓国は似ているところもあるけれど、韓国では兵役があったり、北朝鮮との国境で監視されるのが怖いと思いました。
- ・北朝鮮と韓国は、長い歴史の中で本当は同じ国だったのに、分かれてしまったのがもったいない気がしました。
- ・この 2 つの国を分けてしまったことによって家族に会えなかったり、仲間と別れてしまったのは悲しいです。だからもっと仲良くなれるといいなと思いました。
- ・母が行ったことがあり、いろいろな話を聞いていたので、私も行ってみたいです。北朝鮮はどんな感じなのか、見てみたいです。

### 4. 全体を通じて

- ・私にとって韓国のイメージは食べ物くらいしか思いつきませんでした。この時間で知らないことをたくさん知れたのでよかったです。
- ・韓国のこと、私はキライだったのですが、少し見直したと言うのか、少し韓国について考えることができたと思います。
- ・韓国と日本がもっと仲良くなったらいいなと思いました。
- ・韓国の人々は日本人のことを嫌っているのかなと思っていましたが、日本語をしゃべれる（人もいる）ということにびっくりしました。
- ・これからの日韓がどうなるのかとても気になります。日本人が（韓国の）街で歩いていると、どう思われるのかというのがとても気になりました。
- ・日韓関係にとって大事なこと（中略）まずお互いの歴史を知らなくてはならないという点に共感しました。日本は韓国の歴史にとっても深くかかわっており、もっと親交を深めなくてはならないと思いました。
- ・小学校のときに、韓国人の方に授業をしていただいた。そこでも初めて知ることがたくさんあったのに、今日聞いてもほとんど初めてのことばかりだった。それは、まだまだ自分の知らない韓国がたくさんあるということだと思う。韓国は距離が近いので、自分で実際行ってみるのが一番だと思う。
- ・一部の人が日韓関係を良くしていこうと思っているにもかかわらず、過去にこだわって動きださない人が多いのが残念だと思いました。少しずつでもいいから、おたがいに違っているところをマイナスとして受け止めるのではなく、プラスとして考えていけば日韓友好に近づいていくと思直すことができました。

## Ⅲ 参加者の感想

---



佐藤 航

黒竹 聡美

村田 早紀

小林 穂菜美

岩野 智

山田 祐子

## 韓国 Study Tour 感想

今回の韓国 ST は僕にとって初めての ST でした。

これには、兄が何度も参加していたこともあり、前から興味があって今回ついに参加できることになり出発前からとても楽しみにしていました。

正直、昔から勉強などは好きではない方で、名前がスタディツアーにもかかわらず、最初は観光気分でした。この気持ちが覆されたのが 3 日目の板門店と、西大門刑務所でした。日本ではニュースでよく聞く北朝鮮。その国境がすぐ目の前にあり、周りに軍人が何人もいる光景。それを見ても目の前が北朝鮮という実感は全然湧きませんでした。しかし、その緊迫した空気から停戦中ということを感じ取ることができました。ですがそんな緊迫した状況の中、少し離れたキャンプ・ボニファスでは土産物店も賑わっていて、米軍の兵士は一服しているという光景を見ると、本当に停戦中なのだろうかと改めて思うほど違いがありました。

そして、板門店に関して僕が一番驚いた点は、僕の韓国人の友達が、板門店という場所について一切知らなかったということです。バスツアーのガイドさんも言っていました、日本人観光客は簡単に行けるけど、韓国人は行けない。それが正直僕には意味が分かりませんでした。いろいろと大人の事情はあるのですが、それをただの観光地として終わらせるのではなく、自国民にも直接見て学べる場所にしたらいいのではないかと思いました。ただこれはあくまで政治的なこととかよくわからない僕個人の単純な意見ですが。

次に西大門刑務所では、社会科見学のような子供たちが多くことに驚きました。韓国語は全然わかりませんが、日本を意味するイルボンという言葉が何度も聞こえてきて、日本についてどんな教え方をされているのだろうか？ と興味がありましたが、とにかくここは終始アウェイな空気でした。しかし、ここで展示されている拷問などは事実であり、日本がしてきたことだと考えると、すごく悲しくなりました。

韓国に関しての歴史は今まで全然知らなかったもので、この二か所は本当に考え深い場所だと思いました。

普段真面目な文章を書く機会がないので、大変読みにくくてすいません。

最後に青年部のメンバーのみなさん。理事の山田さん。韓国でお世話になった林さん。そして全てにおいてお世話になった団長のがんちゃん。非常に有意義な時間を韓国で過ごすことができました。本当にありがとうございました。

## 韓国スタディツアーに参加して

今回、韓国スタディツアーに参加するにあたり、初めはただ単に「韓国に行ってみよう」という安易な気持ちで参加を決めました。しかし、韓国に向けて出発する前に事前学習として、今回訪れた板門店や西大門、景福宮などについての調べ学習を行い、韓国について学びを深めてみると、意外にも知らないことばかりだったことを知り、「観光」としてではなく「勉強」として韓国を訪れることが待ち遠しく感じるようになりました。

いざ、韓国へ到着し、まず最初のプログラムが韓国ユネスコの青年たちとのディスカッションプログラムでした。ここでは、お互いの国の若者の生活について、また、社会状況について意見交換を行いました。このディスカッションを通して、韓国について知れたということは勿論ですが、韓国側から日本がどのように見られているかを知ることができたのでとても面白かったです。他の文化を知ることによって自文化省察にもつながり、自国である日本についても考えさせられ、学びを深める良い機会になったのではないかと感じています。

また、他のプログラムとしては、韓国と北朝鮮の国境地帯である板門店を訪れたことがとても記憶に残っています。なぜなら、現地の緊張感が今までに感じたことの無いものであったのと同時に、想像していたものとは少し違っていたからです。そもそも私は、多少の緊張感はあるものの、見学できるほどの場所なのだから、安全であり、ちゃんとした目に見える国境があると想像していました。しかし、実際の板門店は、北朝鮮側の兵士が我々を双眼鏡や監視カメラ等で見張っていたり、韓国側も韓国兵やアメリカ兵がきっちり付き添い、我々の行動を監視、規制していて驚きました。また、国境に関しても、はっきりとしているわけではなく、高さ数センチのブロックが積み重ねられているだけで、説明がなければ気づかないような些細な目印ばかりで示されていました。そのような状況の空間で少し過ごただけなのに、何度も恐怖を感じたことをよく覚えています。しかし、それと同時に、とても貴重な体験が出来たとも感じています。

今回の韓国スタディツアーに参加して、韓国について多くのことを知り、学ぶことが出来て参加して良かったと思っています。また、韓国についてだけではなく、北朝鮮について、また、日本についても考えさせられることを多く見つけ、また一つ、いや、一つと言わず、沢山のことを学ぶことができたと同時に、多くの貴重な体験ができ、とても充実した達成感のあるスタディツアーでした。今回このような機会を与えて頂けたことに感謝し、他の人に何かしら発信できたらいいなと感じています。また、今回のスタディツアーをきっかけとして、今後も韓国や北朝鮮、日本などについて学びを続けていきたいと思っています。

## 感想

今回初めて韓国を訪れました。私は特に K ポップの大ファンなわけではありません。辛い食べ物は好きです。現在通っている大学院に韓国人留学生の友達があります。韓国は私にとっては本当に普通の国でした。外国のことを学ぶことが好きなので、韓国スタディツアーにも、そういった意味でずっと参加してみたいと考えていました。

今回のスタディツアーで一番勉強になったことは、どれだけ韓国が北朝鮮を脅威と感じているか、ということです。韓国の街は雰囲気が東京にそっくりでしたが、いつ戦争が起きても対応できるよう、道幅が戦車も通れるほど広いものになっていて、そこだけ東京と大きく違いました。板門店のバスガイドの方は、国家レベルでは韓国は北朝鮮の 40 倍財力があるため、北朝鮮と仲良くなりたいというのは建前で、統一したいとは思っていないとおっしゃっていました。しかし個人レベルでは、北朝鮮にいる家族に会ってみたいと考える韓国人がおり(中には亡命を企てる人もいる)北朝鮮に対する思いの複雑さを感じました。

今回のツアーで一番嬉しかったことは、日本のことを好きな韓国人学生に出会えたことでした。交流会に来てくれた韓国の学生たちは、日本語が流暢で、そればかりか日本語を教えるボランティアをしてくれているそうです。私は、歴史問題で軋轢の多い日韓関係ですが、こんなに日本に歩みよろうとしてくれている韓国人学生がいて、日韓友好のために韓国で活動してくれていることを本当に本当に嬉しく思いました。同時に自分は韓国語を全く話せないことが、とても申し訳なく感じました。

そういった親日の若者に出会えた一方で、韓国の日本大使館の前にたてられた従軍慰安婦の銅像を見たことも大変印象的でした。日本政府は立場上、問題は解決済みとしますが、私個人としては日本によって苦しめられた人のことを忘れずにいたいと思っています。

ここまで率直に自分が韓国で感じたことを書き連ねましたが、私が一番伝えたいことは、「行ってみれば、好きになる」ということです。今回たった 4 日間の訪問でしたが、日韓の歴史と文化について勉強し、韓国学生や韓国に住む日本人に出会い、おいしいご飯を食べ、買い物をし、結果的に韓国が大好きになって帰ってきました。とても単純ですが、「行ってみれば好きになる」というのは誰にでもあることで、ユネスコの平和の砦を築くのに大きく寄与するのではないかと思います。日本でヘイトスピーチに参加する人が沢山いるのは悲しいことですが、彼らも一度韓国に行ってみる、行かなくても 1 人韓国人の友達ができるだけで、考え方が 180° 変わることもあるのではないかと思います。

仕事についたら、立場上できないこともあるかもしれないけれど、どこにいても心の中では絶対に日韓友好の気持ちは持ち続けたいと強く思います。戦争を経験していないからこそ日韓関係に対してまっさらな気持ちでのぞめる私たちの世代で、個人レベルでも国レベルでも、日韓友好を一步でも前に進められたらいいなと思います。

## 3 度目のスタディツアー

3 回目の参加となりました。まずソウルの、考えていたより非常に寒い環境に驚かされ、アベノミクスの影響か、円からウォンへのレートが高くなっていたことに驚き、私の中でツアーがはじまりました。寒さに関しては、体験したらもうこの冬は耐えられるのではないかなと感じてしまうほどの寒さでした。今回参加したきっかけは、2013 年が停戦から 60 周年という節目の年であるということ、また過去に参加した経験を何か活かせるのではないかなと思ったからでした。

今回のプログラムの内容・訪問した場所、いずれも魅力的だなと感じるときがありました。その中で不思議である、やはり休戦国なのだと感じたのは板門店を訪れたときでした。板門店のツアーは 2 度目、地下のトンネルのツアーにも参加したことがありましたが、いずれもそのときの大韓民国と北朝鮮の関係が表れているのではと、ついつい考えてしまいました。ツアーの内容は前回とほとんど同じですが、南北の会談が行われてきた軍事停戦委員会・本会議場の見学が今回は短かったのではという印象です。また、前回のときよりもお土産屋さんがとても整った施設になっていて、互いの関係は決してよいとは言えませんが、北朝鮮のお金やお酒が売られているのがどうも不思議でたまりませんでした。

また、今回のツアーがいつもと異なっていた点は発表の場があるということでした。前回まで簡単な報告をする場はありましたが、今回のように中学生の前で 1 時間韓国のお話をするという機会はありませんでした。1 時間の内のたった数分の担当でしたが、変な緊張をしてしまいました。中学生のみんなにどう言えば、変な勘違いをされずに伝わるのだろうかとも考えていましたが、終わってみれば想像以上の感想をたくさんもらえました。人に経験を伝えることの重要性を改めて気づけたと思います。また、年が明けバタバタとしていた中で自分自身のいい振り返りをする機会ともなりました。

メンバーが違えば、以前と同じ場所へ行っても同じ通りを歩いていたとしても、感じ方が異なり新たな発見がありと、勉強になった 4 日間でした。「近くて遠い国」韓国。このスタディツアーでの経験が、今後何か役に立ったら幸いです。そして自分の周りから韓国＝ショッピングや韓流だけではないということ伝えていけたらと考えています。

最後になりましたが、今回も団長としてこのツアーを成功へと導いてくれたがんちゃん、ソウルでお世話になった全ての皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

## 報告会を終えて

私は韓国スタディツアーの立ち上げメンバーの1人ですが、これまで7回ツアーをおこなってきて、小・中学生対象の報告会をおこなったのは今回が初めてでした。過去に一般区民を対象とした講演会「韓国を知ろう」(2006年)で、ツアーの簡単な紹介をおこなったことはありましたが、それは大人向けに開催されたものでした。韓国の魅力を小・中学生にわかりやすく伝えるにはどうすればよいか、今回は非常に悩みました。

これは実際に報告会をおこなってみて気がついたことですが、小・中学生たち(当協会の「中学生クラブ」の会員に限定されます)は、日本のメディアで見聞きする範囲でしか韓国の情報を知りません。例えば、朝鮮半島に2つの国家があることは知っていますが、双方の間で未だに戦争が終結していないことはあまり知られていません。他には、日本に対して嫌悪感を抱く韓国人がいることは知っていますが(おそらく歴史問題に関する報道などで)、日本に好意的で日本人と共通の価値観を持つ韓国人がいることはあまり知られていません。ましてや、私たちがディスカッションで出会った韓国青年たちのように、ボランティアで日本語を教えている韓国人が存在するなど、思いもしなかったことでしょう。

スタディツアーを経験した私たちが小・中学生に対して教えられることは、彼ら/彼女らがイメージする韓国とは違うイメージを提供することだと思います。例えば、韓国と言えば辛い料理が有名ですが、韓国人は辛い物ばかり食べているわけではありません。繁華街ではスイーツショップがあちこちにあります。さらには辛い物が苦手な韓国人もいます。冬の寒さについて言えば、韓国ソウルの気温は零下が当たり前で、現地の人もその寒さに慣れているかと思えば、ツアーで出会った韓国青年や韓国ユネスコ協会連盟の方たちは寒さでブルブル震えていました。これらは取るに足らない身近な例ではありますが、イメージの偏りが深刻な国家間の問題を引き起こす場合もあります。小・中学生にはできるだけ中立的な見方をしてもらえよう、韓国のさまざまな面を理解してもらうことが重要です。

では、私たちは小・中学生に対してどのような伝え方をすればよいのでしょうか。答えは非常に簡単です。私たちが驚いたり感動したりしたことを、そのまま伝えればよいと思います。私たちも韓国スタディツアーに参加する前は、小・中学生と同じように、韓国に対する先入観や視野の狭さがあったはずですが、しかし韓国を実際に訪れることで、その状態から(多少)脱却できたわけですから、そのときの喜びを彼ら/彼女らにストレートに伝えればそれでよいのだと思います。今回の報告会で、自分の体験をありのまま語っていた青年部ツアー参加者を見ながら、そのようなことにふと気づかされました。

## 2013 韓国スタディツアー感想

年末の韓国訪問。私にとっては4回目の韓国であり、2度目のスタディツアーでしたが、前回は8月の企画でもあり、訪問地も異なり新たな発見の多いツアーでした。

ソウルも4回目にして初めて訪れたのが、「北村」。ソウルは漢山州、楊州、広州、南京、京都、漢陽、漢城府と、為政が百濟、新羅、高麗、朝鮮…と替る度、呼び名を変えたとされます。実際、日本政府が関係した20世紀初頭に、「漢城」から「京城」、敢えて「漢」を避け、「京」を用いたと言われています。「風水」に基づき、14世紀終わりに建国された李氏朝鮮によって形作られた都市であり、四大門で仕切られた城内の土地は国有とされ、身分制度によりきっちり住居の場所が区別されていました。「北村」は王宮である景福宮に近く、背山南面の清溪川の北側に位置するのが、科挙の受験資格を有した上流階層の両班の住まい。当時の街並みを再現し、今は観光地化されていますが、実際に住居としても使われています。風土に合わせて中庭を囲むように部屋が作られ、寒風を防ぐ造り。因みに、韓国南部の家は、南向きに部屋が並び、風を受ける造りになっているとか。また「北村」に対し「南村」は官職を持たない両班、下級官吏の家並。南山の北麓に位置したようです。

到着2日目の午前中。ソウルユネスコ本部で、韓国の大学生とのディスカッションがありました。予想外に、韓国留学中の日本人が進行役でしたので、進展も早く内容の濃い討論会となりました。韓国大学生と食べたサンゲタンも美味しく、疲れと寒さで到着後、頭痛に悩まされた私はこの一品で、風邪が吹き飛び、元気が蘇り、「北村散策」も、韓国人学生から韓国の習慣なども教わりながら楽しいひと時となりました。夕飯は日本人留学生の案内で、現地の学生で賑わう食堂(?) レストラン。トイレが“未開の地”レベルという事以外は、大変リーズナブルで楽しく、学生時代に戻った気分になりました。

3日目の板門店。1991年に一度、視察で訪れています。当時は、まだ南北対立時代で、非常に緊張緊迫した状態でした。2006年のスタディツアーの時が2回目ですが、金大中大統領の「太陽政策」の成果か、一般の観光客(韓国籍以外)が入れるようになり、また、都羅山駅、そしてそこから見る開城工業団地は驚きでした。未だ休戦下を物語るこの地ですが、対話が多くなる事を望みます。

帰路、凱旋門を思わせる西大門。李氏朝鮮建国当時、北京に通じる義州街道の門として造られた西大門、その傍に、富岡製糸工場を思わせるレンガ造りの建物群が刑務所跡の記念館です。前回のスタディツアー後、内装が新しく明るくなり、社会科見学の小中学生も多く、親子連れで顔出しモデルを楽しむ姿は、館内の雰囲気の変化の大きさを感じました。

最終日、景福宮の中の博物館見学。途中、「お葬式の伝統作法」の説明箇所、日本語ガイドの方と遭遇し、説明を受けました。「風水」に基づき墓の掘り起し場所を変えることがある、という話が印象的でした。

初日、粉雪の舞う南山を登った時間以外は、晴天に恵まれ、最高気温-2度も、清々しく、新しく知り得た韓国文化、学生との会話に満足したツアーでした。

仁川空港に着くや否や、天候が急変し、飛行機に乗り込んだ頃から、別れを惜しむように雪が降り出しました。

## 写 真

### 1 日 目



▲南山・ソウルタワー内にて記念撮影。展望台からはソウルの町並みが一望できる。カップル多し。



▲明洞の裏路地にあるビビンバ専門店。メディアにも取り上げられる有名店とのこと。

### 2 日 目



▲北村の伝統家屋「韓屋」にて。韓国青年が案内してくれた。



▲ソウル有数のマーケット広蔵市場。屋台がずらりと並ぶ。



◀ ディスカッションで司会を務めた林 亮典さん（左）の案内で、学生に人気のチヂミ専門店を来訪。チヂミのセットメニューと飲み物を注文して、1人約 500 円という驚きの安さ。味もちろんおいしい。

3 日 目



▲板門店の会議場内。ここで休戦協定が結ばれた。現在でも南北間の交渉が行われる。



▲日本人観光客の動きを監視する北朝鮮の兵士。双眼鏡でこちらをのぞいている。



▲西大門独立公園にある独立門。清からの独立を記念して建設。



▲西大門刑務所の死刑台（復元）。絞首刑が行われていた。

4 日 目



▲景福宮内の池に浮かぶ楼閣「慶会楼」。外国要人の接待の場。水面は雪に覆われ、一面真っ白。



▲「独島は韓国の東海の島」と書かれた垂れ幕。景福宮近くのビルに掲げられている

## あとがき

報告書の作成は骨の折れる作業ですが、ツアーの行程や費用、どこを訪問し、そこで何を見てきたかなど、一度内容を整理しておく、将来実施するツアーの参考となり非常に役立ちます。とりわけ、ツアー費用を見積もる際に過去の費用を見返してみると、だいたいの金額を予想することができます（ただし本ツアーの場合は、韓国ウォンと日本円の為替相場が時期により変動するため、見積もり額と実際の金額が異なることがよくあります）。将来、ツアー担当者が変わったとしても、この報告書をマニュアルとして使用してもらうことで、支障なくツアーを継続することができるでしょう。

報告書を作成することの利点はもう 1 つあります。それはツアー参加者自身の知識の整理です。現地で体験したことを言葉で残しておく、しかも自分の頭で要点をまとめ、自分の言葉でわかりやすく表現する。これら一連の作業を通じて、頭に詰め込まれた断片的な情報が、その人の「知識」として体系化されていきます。スタディツアーをより効果的な学習のツールとするために、報告書を作成することは良い方法だと言えます。今回お忙しい中、原稿を寄せていただいた参加者の方々には、きっとすばらしい「知識」が蓄えられたことでしょう。

本報告書を締めくくるにあたり、4日間ともにツアーを楽しんだ参加者の皆様はもとより、韓国でのスタディツアーという貴重な学習の場を提供して下さった杉並ユネスコ協会（理事および会員の皆様）、同ツアーの実現を資金面で支えて下さった日本ユネスコ協会連盟にお礼申し上げます。また、ディスカッションから街めぐりまで一日中同行して下さった韓国青年の方々と、仕事納めの日にもかかわらず、私たちのために貴重な時間を割いて対応して下さった韓国ユネスコ協会連盟（とりわけキム・スージャ事務総長およびイ・ソンジュ事務局長）に心より感謝申し上げます。このつながりは、私たちにとって何にも勝る宝物です。

岩野 智

第7回韓国スタディツアー（2013年）

報告書

発行日 2014年2月27日

発行 杉並ユネスコ協会

URL <http://suginami-unesco.org/>

編集 岩野 智（杉並ユネスコ協会理事）



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



杉並ユネスコ協会